

事例1の面接内容 韓国人、在日10年以上、子ども1人(3歳)

子育て不安

子育ての悩みは沢山あるが、どうしてよいかわからず、自分で最善だと思ってやっていったが、正しかったのかはわからない。子育ての違いがあり、近所に親や親戚がいないので不安に思っている。子どもがハングルを話して欲しいが、聞くことはできても自ら話さないことが不安に思っている。

- ・子育ての悩みって、いっぱいあるんですね。自分で最善だと思ってやっただけで、それが正しかったのかわからないし。
- ・子育ての違いがあると、不安であることは不安であると思うんですね。近所に親とか親戚とかがいないから、不安であると思うんだけど。
- ・(子どもがハングルを話すように)気を付けているんだけど、なかなかできなくて。聞くのは聞くんだけ言葉をしやべらないから、しゃべってって言ったらしゃべれないことはないんだけど、自分からは韓国語をしやべらない。

子育て観の違い

自分が育ったことを思うと、日本とは根本的に違うことがあり、人によっては不安に思ったりするだろうが、事例の場合は戸惑ったりはせず、両方を客観的にみることができるので、親の価値観で判断している。

- ・自分が育ったことを思うと、日本とは根本的に違うことがある。
- ・私の場合は両方客観的に見られるから、良いところを取り入れて、自分が親として判断してやればいいのかと思うんですね。しょうがないと。

子育て方法の違い

子育て方法の違いについては、韓国の子育て方法も日本の子育て方法もわからないので、違いは一概には言えないと思っている。

- ・韓国での子育てが何かというのが、まずわからないですね。
- ・日本と韓国の子育てがどう違うのかは一概に言えない。自分がいまだにわかっていない。

子育ての経験

日本で上手く言葉が通じなかった当時、辛い経験をしている。自分が行ってきた子育てに対しての「それで良いのだ」という承認を受けていないと感じている。

- ・私お産のときに、母乳飲ませなかったんですよ。すごく飲ませたかったんですけど、助産婦さんの指導が足りなくて、私わからなくて、飲めなかったんですよ。
- ・自分で最善だと思ってやっただけで、それが正しかったのかわからないし。

育児情報

自ら韓国の母親に聞いたり、インターネットなどを利用して育児の情報を得るなどの力はある。しかし、具体的に困ったときの子育ての対処方法については適切な情報を得られず困っている。

- ・子育てを一緒にやっている人から直接聞く機会があんまりなくて・・・何かあったらまず韓国の親に電話して聞いていました。
- ・(第2子を妊娠中に子どもの機嫌が悪くなったとき)本国のお母さんに相談して多分妊娠したからじゃないかと言われたりするけど、じゃあどう対応したらよいのかは、どこにも教えてもらえない。
- ・それからインターネットとかで情報をもらったり仲間になったりすることはある。

ネットワーク

自らサークルなどにも参加したが、そこでも日本人に合わせる意識が働き、育児不安の解消や友人をつくる役割は果たせていなかった。友だちがいないので、直にであって相談しあうことができなかったり、韓国と日本の子育ての違いで困るなどの同じ悩みを共有したり、アドバイスをもらえないので不安に思っている。自分が行っている育児に対しての承認を得られる人がいない。保育園でのネットワークの拡がりに期待している。

- ・家で子どもと2人きりだったんですね、彼女も友だちが欲しいし、私も同年代の友だちがほしくて、運良くサークルがあったんです。はるばるバスに乗って毎週行ったんです。サークルにいくと、同年代のお母さんがいっぱいいて、そこへいっても、合わせていたんですね、私たちは。
- ・周りに韓国人がいなかった。いるとは思うんですね、自分が知らないだけでいっぱいいるとは思うんですけど。
- ・保育園の保護者が近所にいっぱいいるんですよ。これから彼女たちと付き合っていこうと思います。韓国人がぎらずに、子どものお母さんたちをつくりたい。
- ・身近に出会って相手がいらない。誰かと直に出会って相談し合ったりできないのが心配、困る。

- ・韓国と日本の子育ての違いがあると、近所に親とか親戚とかがいなくて、不安であると思うんだけど。

文化や習慣

日本に合わせようとする意識が強い。サークルに行っても日本人ばかりなので、合わせてしまい自分を表現できないでいる。

- ・私は日本にあわせなきゃいけないという思いが多いんですね。
- ・韓国ではあくまでこういう風にやるけど、家の中ではそういう風にしますけど、一歩家をでたら日本人に合わせるのがいけないと思う。まず自分から行動しなくて、周りをみるんですよ。
- ・サークルにいくと、同年代のお母さんがいっぱいいて、そこへいっても、合わせていたんですね。

子どものアイデンティティ

娘には、韓国人として日本で生きていって欲しいと思っており、日本社会にもそれを受け入れてくれると期待している。また、韓国のアイデンティティを持てる様に、テープを聴かせたり話しかけたりして努力しており、子どもが自ら韓国語を話さないことに不安に思い焦っている。親に対して「ハングルで話して」と言うことにはうれしく思っている。日本で生活することになるので、日本の童謡もわからなくてはならないと考え、両方の音楽や本を聞かせている。

- ・民謡とか童謡とかは、本当に小さい頃からずーっと聞かないと身に付かないと思うんですね。
- ・子どももこれからずっと日本育ちになると思うんですね。だから小さいときからそういうリズムに触れさせないと子どもの感情に残らないと思う。
- ・だからテープもかけたりするんですよ。もちろん言葉も大事。書くのはもうちょっと大きくなってからでも良いから、聞くのとしゃべるのとそれだけはやりたいと思っています。気を付けているんだけど、なかなかできなくて……自分からは韓国語をしゃべらない。
- ・韓国の文化、彼女が本当に自分のアイデンティティを韓国の方にもつようにさせたいんですよ。
- ・両方（韓国と日本の）いつも音楽をかけていました。お話のテープもいっぱい韓国から送ってもらって、していました。
- ・日本の本を買って読ませても、日本語より韓国語で話して欲しいと言いますね。私が韓国のネイティブなので、韓国の方が柔らかく聞こえるみたい。お家ではハングルで話しています。
- ・今の在日みたいに韓国人であることを隠して日本人の様に生活しなくても、今日本は随分成熟していると思うんですね。外国人として生きていってほしい。

自分のアイデンティティ

在日期間や日本語の能力に関わらず、日本にとけ込めない、友人もいない。気持ちは韓国に向いているが、韓国についての情報もなく、日本についてもわからず愛着も感じない。結局自らのアイデンティティが不安定な状態になっている。

- ・どういう気持ちかっていうと、ただ身体だけが日本にいて、気持ちとかそういうのは全部韓国にいて、ここはただ行ったり来たりするだけ。寂しいというか、気持ちが浮いている。
- ・歌も全然心に響かない。言葉がわからないわけじゃない。言葉はわかるけど、心に来ない。自分が聞きたいのは自分が韓国にいた頃の歌。
- ・私は韓国を離れた間の韓国も知らないし、かといって、日本に来た間、日本のことがわかるかといったら日本のこともわからないですよ。
- ・浮いている状態。どこにも根を下ろさない浮いている状態で今生きていると思います。主人ともそういう話をして、「悲しいね、何やっているんだろう」と思うんですね。
- ・生活の本拠地だから、これからずっと日本にいて予定でいるから、もうちょっと日本にとけ込めばいいなあと思うのですが、なかなかそれができない。機会もあんまりなかったし。

保育園の関わり

保育園には、多文化保育を意識して入園させたわけではない。韓国の文化を取り入れ、特に言葉や行事などで韓国の文化を取り入れることをとてもうれしく感じている。そのことで、子どもが韓国人であるアイデンティティを持てるようになり、自然に国際的になっていくことをうれしく思っている。と同時に面接中の表情から、自分に対しても保育園の活動が韓国人としてのアイデンティティを保障してくれていると感じている様であった。

多文化保育以外のことで、子どものしつけと、保育士の優しい関わりがうれしく思っており、また、保護者間の交流ができることを期待している。

- ・会社から近いというのが、一番最初のきっかけです。
- ・最初は必ずしもSじゃなきゃだめっていうわけじゃなかった。S保育園で良かったとつくづく思います。
- ・他の国の人も沢山いるけど、基本が韓国じゃないですか、そういう基本がよかった。言葉も韓国の言葉を沢山使う。
- ・先生方もすごく丁寧に優しいし、いろんな面で。
- ・運動会やってブンムルやったとき感動しちゃって、こういう民族の文化がでられるんだと思って。入ってからよかった！
- ・彼女が行儀というか礼儀というか、1つ1つ節目節目区切られるのができるようになったんですね。
- ・いろいろな子どもと育つのが凄く良い。自然に外国の名前に接して、彼女も自分が外国人であること、韓国人ということ

がわかるのかなと感じる。自然に国際的になる。肌の色が違って変に思わないし、そういうのが良いと思います。

- ・保育園の保護者が近所にいっぱいいるんですよ。これから彼女たちと付き合っていこうと思います。韓国人がぎらずに、子どものお母さんたちをつくりたい。

家族の支援

夫は、子育てについては、自分の意見を尊重してくれると思っている。

- ・うちの主人は、子育てに関しては私に合わせてくれる。

日本社会と外国人

日本社会に合わせる意識が働いているが、外国人として発言していく必要性も感じており、そういう機会を望んでいる。

- ・かかわることがあんまりなかったので、わからない。
- ・とにかく合わせようという気持ちがあるんで、こっちはわからないから「何でこうなの」という前に「こんなもんかな」という気持ちが多いですね。
- ・とにかく外国人は弱者なんです。個人の付き合いではそんなことを感じないけど、区役所とか公の場に出た場合は、そういうことを感じる。
- ・私たちの立場も役目だと思うんですよね。慣れちゃうから我慢すればいいって気持ちになるのが良くないと思うんです。
- ・そうしないと日本は変わらないと思うんですよね。自分たちはわからないんだから。慣れているし、相手の気持ちもわからないんだから。外国人じゃないわけだから。
- ・そういういうたんに言える何かがあればいいと思うんですよね。言えるような雰囲気作りがまず大事じゃないですか。

事例2の面接内容 韓国人、在日約7年、子ども2人（第1子が6歳）

子育て不安

自分が漢字に不自由しているため、子どもに聞かれても応えられないので困っている。もし韓国に帰国したとしたら、子どもに韓国文化のなかでうまく適応してほしいが、子どもがハンゲルができなくて苦しんだり更にイジメが重なるのではないかと心配している。

- ・私が日本人じゃないから、子どもが成長して学校入って、そこまで日本にいたら、私が日本人じゃないから、子どもに教えてあげられないってそれで結構悩んでいます。
- ・日本でも幼稚園や学校でイジメが結構あるって聞いたんです。
- ・普通に帰ったときに、子どもは日本でしっかり勉強したのに、帰国して韓国の言葉を習ったとき、言葉ができない時に苦しむときに、自分の苦しむ時にイジメが重なったらどんなに苦しいかってそれが心配です。
- ・育てるのは、言葉以外何も難しくはないですけど、韓国に帰った時に、別の生活の中に入ったときにそれができるかが難しいと思います。友だちがなければ何もなし、それがお父さんと一番気にしています。

子育て観の違い

韓国と日本では、子育てもしつけも教育も全然違うと思っている。自分は韓国と日本を半分ずつ取り入れている。

- ・日本に来た友だちがいて、その人達に聞いたら、結構全然違うんですね。
- ・韓国の子育てを取り入れているのは、半分づつかな。半分づつなんですね。
- ・韓国だと暴れん坊達沢山みたので、日本ではそんな子どもまだ見たことがないですね。いると思うんですけど。韓国の子ども、暴れん坊じゃなく、人に迷惑かけないように育ててほしいと思う。

子育て方法の違い

韓国と日本では、教育も子育ても違うと思っている。韓国の情報を友人から聞いて、日本の良い習慣や住み易さを自覚している。

- ・勉強するのも全然違うし、育てるのも全然違うんですよ。
- ・韓国のお母さんは何でも買ってあげるんですけど、日本では必要ないなら買わない。何でも買っちゃいけないって教えるって大事ですね。

子育ての経験

韓国の子育ての経験はない。子育ての経験では、厳しい大変なことはなかった。子どもにやっていけないことを教える際、難しい経験をしたが、それが自分の自信となっている。子どもに感じを読んで欲しいと言われ、読めなかったつらい思いをした。

- ・韓国ではあんまりどうやって育てるか見たことがない。
- ・経験はそんなにはないんですけど、私は、自分でこうやってすればいいって言うのはわかる。
- ・子どもを育てるとき、厳しいものはなかったですね、ちゃんと進んでいったのですね。できないときは本をよく見ました。韓国の本は結構あるので、喧嘩したときとか病気のときとか、本を見てると当たります。

- ・子どもが前に向いていけないとき、困っちゃいますね。悲しいし。私の子どもは他の子どもより、話を聞きやすいので、いいです。私が怒るからでしょうか（笑いながら）・・・
- ・（やってはいけないことを）子どもに説明して理解してあげるか（理解させるか）が難しかった。
- ・子どもが（漢字を）読んでくれて言ったとき、わからなくて本当に困りました。

育児情報

子育ての情報は、韓国の本やテレビ、日本のテレビなどから得ている。また、韓国の友人同士の情報交換が多い。日本の友人はあらず、保育園の日本人の母親からも情報は少ない。

- ・出来ないときは本をよく見ました。テレビも結構ありますよね。日本のテレビ、韓国のテレビ両方です。
- ・たまたま聞きますが、（日本人の）友だちはいないので、保育園のおかあさんたちから少しずつ「私のところはこうやっている」って聞くけど、そんなには聞かない。
- ・ほとんど韓国の友だち結構遊びにくるので聞く。自分の友だちが韓国人の人が多いので、その中で情報交換します。

ネットワーク

夫の家族や韓国人の友人同士の助け合いがあり、随分助けられていると思っている。
韓国から日本に来た在日外国人にとっては、地域コミュニティの助け合いが必要であり、それは子育てに限らず、コミュニティで集まることで寂しさを軽減する効果もあると思っている。
本人が地域コミュニティのネットワークの中に居て、友人も多く、安定した人間関係がある。

- ・自分の友だちが韓国人の人が多いので、その中で情報交換します。子どもも韓国の友だち結構いるんですよ。遊びにきます。
- ・アッパ（子どもの父親、自分の夫）の家族は日本に住んでいます。
- ・日本で子育ての力になっているのはお友達、悩みがあったら先生に話とかします。
- ・子どもを育てるときに、私の子どもがこうなったときにどうすればいいの？っていうとき、私より住んだお姉さん達に聞くんですけど、教えてくれます。育てやすいように教えてくれます。
- ・地域で助け合いはないですけど、子どもがいるお母さん同士では助け合ったり、悩みとか話ししてくれたりいっぱいありますね。
- ・韓国のお母さん達は日本では頼る人がだれもないじゃないですか、私は親戚がいたので助けてもらうけど、お母さん達は親戚がいないので、子どもがいると何もできない。だから助け合います。
- ・お母さん達やお父さん達も食事しながら話したりすることも結構あります。その中では良いっていうか、大丈夫。
- ・韓国はうわーって集まってうわーってやるのが大好き。でも日本ではあんまり近所迷惑でできないけど、結構いっぱいあるんですよ。美味しいものがあつたり、うれしいことがあつたりすると、すぐ電話して集まるんですよ。そうすることで淋しい気持ちが少なくなっていく。

文化や習慣

韓国を忘れないようにハングルを使ったり、文化を大切にしたいと考え保育園を選択したり祭りに参加している。普段の生活では韓国のことを意識して取り入れることはしないが、生活の悩みや友人で集まって食事をして騒ぐなど、日本と韓国の共通部分もあると感じている。

- ・私は韓国を忘れないように、韓国の言葉でしゃべっているんですよ。
- ・生活のことは、国によって、こういう悩みがあったらこういう悩みがあるってどの国も同じですね。
- ・韓国はうわーって集まってうわーってやるのが大好き。でも日本ではあんまり近所迷惑でできないけど、結構いっぱいあるんですよ。美味しいものがあつたり、うれしいことがあつたりすると、すぐ電話して集まるんですよ。そうすることで淋しい気持ちが少なくなっていく。でも日本のオモニ達も、それは同じだと思います。

子どものアイデンティティ

子どもは、ハングルを全部聞くんが、話すのは日本語である。以前「日本にいるのだから日本語で話して」と言われたことがあり、つらい思いをした。現在子どもが自分のことを「韓国と日本半分半分」と思っていることをうれしく思っている。韓国の文化を伝えていきたいと考え、保育園や小学校を選択した。色々な国の人の中で勉強して欲しいと考えている。韓国に帰国後も韓国の文化を習って欲しいと考えているが、上手く子どもが適応できるか心配している。

- ・子どもは韓国の言葉を全部聞くんが、でも口からでるのは全部日本語です。
- ・子どもはその（ブムルの）写真を見て、あと私がやっているのを見て「ママやっぱり自分は韓国人だと思う」って
- ・以前は、子どもは韓国の言葉が全然出来ないから、聞くのもできないから、私が韓国の言葉でしゃべったら「オンマ（お母さん）何で韓国の言葉でしゃべるの？ここは日本でしょ、日本の言葉でしゃべって」って言ってました。本当に悲しかった。今は自分も半分づつってわかるみたい。
- ・ここは韓国の文化を結構教えてくれるじゃないですか、そのせいかもしれないですね。
- ・自分も半分づつじゃないかって思っているみたい、話しているとわかるみたい。
- ・小学校入ったら完全に日本になってしまう心配です。

- ・完全に日本の人だけでなく、いろんな人のいる中に入って勉強したら良いとおもう。
- ・やっぱり自分が入って勉強して（韓国と日本両方半分半分）心からついてくることができるんじゃないかと思うんです。
- ・韓国に行っても、韓国の文化を習いながらやってほしいと思いますが、上手くできるか心配です。

自分のアイデンティティ

自分は韓国人という強く意識した言葉はないが、明らかに韓国人だというアイデンティティをもっていることが言葉の端々や内容から伝わってくる。

- ・（子どもがハングルで）突然全部書いた紙をもってきて、それはとてもうれしかった。
- ・やっぱり保育園の中で先生達が、自分の物に名前を書いてあげたりするじゃないですか、お母さんも書くんです。ハングルで書くんです。
- ・（保育園は）韓国の文化を大事にしてくれるから。

保育園の関わり

文化を大切にしてくれることを考え、S保育園に入園させた。実際入園して、文化を大切にしてくれることや自然を取り入れること、保育士が優しいことにとても満足している。

食事や昼寝、挨拶などをハングルで行い、保育園で使用している道具などにも子どもの名前をハングルで書いてある。そのことで、子どもが「これが自分の言葉」と認識することをとてもうれしく思っている。最近では子どもが自分のハングルの名前を練習し、書けるようになったと非常にうれしそうに話していた。

保育園でいろいろな国の言葉を使うことで、その言葉をならうだけでなく、大事にされている感じがすると思っている。色々な国の子どもと育ち、お互い話しあうのは、色々良いところがあると思っている。

- ・韓国の文化を大事にしてくれるから。
- ・Sに入ってからよかったことやうれしかったことは、自然を取り入れるのもそうだし、文化のこと教えてくれるし、先生も優しい。
- ・ひらがなは書けるかなって思ったら、ひらがなは「○○（名字）」だけ書くんです。でもハングルで全部名前は書けないと思ったんです。教えてくれていなかったから。でも突然全部書いた紙をもってきて、それはとてもうれしかった。
- ・やっぱり保育園の中で先生達が、自分の物に名前を書いてあげたりするじゃないですか、お母さんも書くんです。ハングルで書くんです。これを子どもが自分で見て、これは韓国の言葉、私の言葉って言って、子どもが練習して書いたことがうれしかったです。それで自分の名前を書けるようになりました。うれしかったです。
- ・ご飯食べるとき、食べた後、寝るとき、全部ハングルでやるでしょ。それがすごい役目大きいですね。
- ・挨拶もハングルだけでなく、フィリピンの言葉もあっていろんな言葉があるじゃないですか全部習ってくれるので、感謝しています。大事にされている感じがします。
- ・いろんな国の人と遊ぶことについては、良いと思います。色々な国の人と育つのは、色々良いところがあると思います。

家族の支援

父親は仕事のため子どもと過ごす時間が少ない。

- ・時間がないので子どもと会う機会がないです。

日本社会と外国人

日本では、自分の周囲には韓国人も多く、近所に迷惑をかけない程度なら住み易いと思っている。行政に対する望みは特にない。

- ・ないですねえ。望みって言うのは別で。日本は暮らしやすいです。
- ・日本では他の人の目をみなくていいし、近所に迷惑をかけない程度なら住み易い。
- ・私の住んでいる街は、韓国人が多いので住み易いですが、噂がよくあるので、良いか悪いかわからないですけどね。

事例3の面接内容 韓国人、在日1年未満（学生として数年の在日経験あり）、子ども2人（第1子が4歳）

子育て不安

仕事のため子どもを気遣うことができず、残念に思っている。

自分たちの仕事の都合で来日し、子どもが日本に来たばかりで韓国と日本の文化や習慣、言語の違いに戸惑いカルチャーショックを受けているとき、その違いについて上手く説明できなかったことが辛かった。とても心配していた。今は子どもが保育園の生活を楽しくしているので、安心している。親子の文化の違いが一番の問題であり、将来のことを心配している。また、韓国人ということで差別やいじめがあるのではないかと心配している。

- ・今は申し訳ないんですけど、仕事が忙しくて子どもたちにそんなに気を遣うことができないんですね。それが残念です。
- ・（子どもから、韓国と日本の違いを）聞いてそれが説明できなかったんですよ。日本ではそうなんだよって言えなかったんですね。
- ・（子どもがカルチャーショックを受けていたとき）その時にはお父さんの方がもっと心配していました。

- ・親子の文化の違いが一番問題だと思うんですね。
- ・一応計画は、ちょっと早めに帰っちゃうというんですけど、どうなるかわからないじゃないですか。その時（親の意見より自分が大事と言う時）が来るとどうしようとお父さんと言っているんです。
- ・ちょっと恐いのが、私も日本で生活したけどそういうのは感じられなかったんだけど、子どもが韓国の子どもだから日本で差別とかされることもあると思うんですよ。韓国人ということで、差別された時、その時にはどうしようかと思うときがあります。よく乗り越えて欲しい。

子育て観の違い

子育て観の違いを感じている。自分は韓国の文化しかわからないが、夫が滞日期間も長く考えも広いので、夫に相談する。子どもにとっては日本にいるのだから日本に慣れた方が楽だろうと思うこともあるが、それでも時には韓国の方を通すこともある。

- ・私は1つしかわからないですから、お父さんの方に聞くと、お父さんの方が考え方が広いみたいなんですよ。
- ・今は日本にいるから、少しこっちの方に慣れていくと子どもの方が楽だから、無理矢理（韓国風に）させると悪いんじゃないかなと思うんだけど、たまたまに言わなきゃとそういう（こともあります）。

子育て方法の違い

日本と韓国の子育て方法の違いはわからない。自分は韓国にいた頃の子育てをそのまま継続している。日本に来た頃、保育園でも韓国の様にしたかった部分もあるが、今は慣れて気にしなくなった。

- ・やっぱり日本の子育てはよくわからないですから、私は（韓国の子育て）そのままやるんですけども。
- ・私も最初はびっくりしました。韓国ではみんな靴下はきますから。今は慣れて関係ないんだけど。
- ・子どもに弟の責任をとらせるんですよ、私の方は。弟を守ってあげなきゃと良く言っちゃうんですよ。
- ・（上の子は）得するんだけど、兄弟の責任をとって下の子たちを守るっていうのがあるから、私も言っちゃうんですね。

子育ての経験

来日間もない頃、子どもが日本と韓国の違いに困惑しカルチャーショックを受けたことや、その時上手く説明できなかったこと、保育園に行きたがらなかったこと等が辛い経験として残っている。自分も日本の習慣に驚いたが、現在は慣れている。自分の母親からのしつけが、自分の子育てにも影響し、子どももその様に育っていることについては、頼もしく思っている。

- ・（子どもから、韓国と日本の違いを）聞いてそれが説明できなかったんですよ。日本ではそうなんだよって言えなかったんですね。
- ・私もお母さんからずっと（兄弟を守ることや上の兄・姉を敬うこと）教えてもらったんですよ、大きくなるまで。私は言おうとしなかったんだけど、やっぱりするんです。
- ・ここでは靴下あんまりはかないですね。韓国では靴下はいてやるんですよ。「なんでみんな靴下はかないの？」って（言っていました）子どもは好き嫌いがはっきりあります。ちゃんと靴下しないとイヤだって言っていました。それで保育園行きたくないっていうくらい。
- ・（きょうだい）2人きりで喧嘩ばかりなんですけど、ちょこっと見たら、他の友だちから弟が殴られたりすると、今度は（兄の）○○が、殴られてなくてもおもちゃとかあげないと、○○がぱーっと出て来てすごいですよ。そういうのがあるんですよ。
- ・子どもにとってはカルチャーショックで、子どもはストレスは貯まっていた。

育児情報

育児の情報は、韓国にいる母親に電話で聞いたり、自分の店に来る韓国人の友人に相談したりする。保育園には子どものお迎えに行くときしかチャンスがないが、時間がないので相談できない。

- ・やっぱり韓国にいる私のお母さんから聞くことが多いですね。電話とかで聞きます。
- ・（子どものことで何か）悪いなと思ったら、保育園の先生に聞くことは仕事が忙しくてなかなかできないので、よくお店に韓国のおかあさん達が来るんですよ。その時に聞いたりします。良いですよ、ほんとに。

ネットワーク

韓国人の友人がおり、相談できる。保育園とは子どものお迎えの時からしか時間がないが、不自由さは感じていない。

- ・（子どものことで何か）悪いなと思ったら、保育園の先生に聞くことは仕事が忙しくてなかなかできないので、よくお店に韓国のおかあさん達が来るんですよ。その時に聞いたりします。良いですよ、ほんとに。

文化や習慣

文化や習慣、言葉が違うことには慣れた。自分は韓国しか知らないが、夫が両方知っているので、相談し頼りにしている。韓国は家族のつながりが強く、親の意見が子どもの意見よりも優先される。将来子どもが日本の文化や習慣になれ、自分の意見を親の意見より優先させるようになってしまったら心配している。

- ・文化や習慣、言葉が違うことについては、今は慣れたんですね。
- ・私は1つしかわからないですから、お父さんの方に聞くと、お父さんの方が考え方が広いみたいなんですよ。
- ・やっぱり私は韓国の方が家族とか親戚とか周りのつながりが強いと思うんですね。
- ・大人になって、大人にならなくてもちょっと大きくなったら、自分の意見が誰よりも一番重要だと思うときになっちゃうと、お父さんと私はちょっとおかしくなるかなと。
- ・一応計画は、ちょっと早めに(韓国に)帰っちゃうというんですけど、どうなるかわからないじゃないですか。その時(親の意見より自分が大事と言う時)が来るとどうしようとお父さんと言っているんです。

子どものアイデンティティ

日本に来日後、子どもが活発になり、表情が豊かになって自分の言いたいことを話そうになり喜んでいて。子どもは来日後、保育園に行きたくない程カルチャーショックを受け、ストレスが貯まっていた。そのときは両親も心配していた。

両親は、韓国語を忘れないように日本語を教えていなかったが、子どもが困るので、強くは思えなくなった。子どもが韓国語を忘れないように絶対に自宅では韓国語を話しているが、この方法で良いのか気になっている。今は日本語が上手になってしまった。

韓国人であることを忘れないで欲しいが、日本のこと、環境や文化なども好きになって身につけて欲しい、日本人、韓国人というよりも、自分らしく堂々と生きていって欲しいと思っている。

保育園で色々な国の人とであうことで、自分とは異なる文化やルーツを持った人に対して、怖さや抵抗がなくなり、同じ人間だと思えることをうれしく思っている。

- ・子どもが前より全然違ったというか、全然言うこと聞かないし、活発というか、身体が足りないくらい。(うれしそうに)
- ・自分の言いたいことを話そうになりました。それはすごいありがたい。
- ・(子どもから、韓国と日本の違いを)聞いてそれが説明できなかったんですよ。日本ではそうなんだよって言えなかったんですね。
- ・最初から日本語教えて挙げていたらやばいと思っているんですよ、お父さんの方はすぐ韓国語忘れるから。どうせずっと日本に住むわけじゃないから、それでも日本語わからないと子どもが困るから、今度は。
- ・家に帰ってきたら、絶対韓国語を使いなさいと言っているんですよ、お父さんの方は。
- ・でもあの子は帰ってきてても(日本語が)ずっと続くんですね。だから、たまたま日本語でしゃべっちゃうんですよ。
- ・今はもう私たちより日本語沢山しゃべるようになりました。
- ・日本人みたいな韓国人じゃなくて、韓国人みたいな日本で育った子じゃなくて、自分の堂々で、恥ずかしいものじゃなくて、なんていいですか？
- ・私は韓国人だよじゃなくて、日本人だよじゃなくて。自分は自分らしく生きてほしい。
- ・お父さんとお母さんの方は、韓国人を忘れないで欲しいですけど。
- ・日本のことについても、みんなを全部、環境とか教育とか、日本の文化も全部好きになって欲しい。身につけて欲しい。
- ・私としては欧米人を見ると恐いです。映画では平気だけど実際見ると目が青とか金髪とか恐いんです。でも子どもの時からずっと仲良く遊んだらそういう面がなくなっちゃうと思うんですね。だからいいと思うんです。みんな同じ人間だから・・・で。
- ・韓国ではみんな韓国人で、他の人を見ると珍しいように見るんですよ。なんか違う、何回も言っているんですよ。でもここでは普通に見るじゃないですか。それで最初はびっくりしたみたいなんです、あんまり見たことがないから。今では普通になって、それで良かった。

自分のアイデンティティ

両親とも韓国人としてのアイデンティティをもち、子どもにも忘れないで欲しいと思っている。

- ・お父さんとお母さんの方は、韓国人を忘れないで欲しいですけども。

保育園の関わり

保育園については、もともとどういう保育園が知っており、言語の問題や文化の問題を考え入園を希望した。保育園で自然と多く触れあうようにしていること、自分のことを自分でできるようにしていることを良いと思っている。保育士がひとりひとりの子どもを良く見ていて、親の知らない子どものことを、お帳面に書いてくれていることに感謝している。

保育士も周囲の子どもも、言葉ができないことを解ってくれるのではないかと期待していたが、その期待どおりになっており、話せない子どもがいても普通な感じがし、子ども同士で言葉を助けてくれるのもうれしく思っている。子ども自身が保育園での生活を楽しんでいることに安心している。民族の文化を大事にし、運動会でプンムルをしたことを良かったと思っている。色々な子どもと友だちになり一緒に育つことが、自分の子どもにとっても自然なことになったと喜んでいて。

- ・保育園ではそんな時間がないんですよ。ぱっと来てぱっと帰っちゃうんですよ。
- ・本当は聴いてみたいんですけども、その時は忘れちゃうんですよ、早く帰らなきゃいけないと思うから。
- ・良いことは、ここ(保育園)でちゃんと自分で自分のものをやっちゃうんですね。結構自分のものを自分でやるんです。それが助かると思うんですけど。

- ・楽しんでるのは、ここを楽しんでるんですよ。
- ・最初は言葉の問題で。最初から希望しました。入ったらすごい良い。
- ・韓国で番組を見て、ここの教会の先生がテレビの番組に出て、7年前に日本に勉強しに来て、教会にも来て話をきいたりしました。またZ市の方に来て、ここに入ったら良いなと強く望みました。
- ・言葉もできないのもわかってくれるんじゃないかなって、先生も子ども達も。
- ・日本の一般的な幼稚園だと厳しい、子どもとしては。韓国語もわかるはずじゃないし。
- ・話せない子どもがいても普通な感じがするんですよ。それでも通じるのが不思議なんですけど。
- ・この前の運動会で子どもがブンムルノリの一生懸命やっているのを見て、すごく良いなと思いました。
- ・韓国でも一生懸命教えてもらわないと難しいですね。ここでそれをやるのは気持ちいいと思うくらいでした。すごい良かったと思いました。
- ・フィリピンとかブラジルの友だちも素直に思っちゃうんですよ。それがいいなと思います。
- ・韓国ではみんな韓国人で、他の人を見ると珍しいように見るんですよ。なんか違う、何回も何回も言っているんですよ、でもここでは普通で見るじゃないですか。それで最初はびっくりしたみたいなんですよ、あんまり見たことがないから。今では普通になって、それで良かった。
- ・韓国では（自分とは違う様子の人をみると）何回も大きい声で言っちゃうんですよ。どうしたの、どうしたの、とか。すると説明ができないんですよ。早く他の所へ行って言わないととか、あ、危ないとか思っちゃうんですよ。そういうことがあったんです。今はそういう人もいるんだって自分で思うらしいんですね。それも良かったと思います。
- ・お帳面とか見ますと、詳しく書いてあることがあります。私の知らない子どもとか良く見るんですよ。
- ・先生達が詳しいことを見ないと書けないじゃないですか、1人1人をよく見て書いて下さっています。お父さんの方もびっくりしています。
- ・私としては欧米人を見ると恐いです。映画では平気だけど実際見ると目が青とか金髪とか恐いんです。でも子どもの時からずっと仲良く遊んだらそういう面がなくなっちゃうと思うんですね。だからいいなと思うんです。みんな同じ人間だから・・・で。

家族の支援

自分たちの仕事の都合で来日し、子どもが文化や習慣、言語の違いに戸惑いカルチャーショックを受けていた時には、とても心配していた。夫は優しくとても頼りにしており、よく相談している。インタビューの様子からも信頼し、仲がよいことがうかがえる。子どもがハングルを忘れないようにして欲しいと願い、自宅ではハングルしか話さない。

- ・（子どもがカルチャーショックを受けていたとき）その時にはお父さんの方がもっと心配していました。
- ・お父さんはあんまり無理矢理教育させるなとします。成績が一番下でもいいから学校入の前にハングルとか教えてあげるなど言ってるんですよ。
- ・日本に来て違うと思った時や困った時は、やっぱりお父さんと相談しますね。
- ・お父さんの方が日本に7年くらい生活していますので、子育てとかは知らないんですけども、日本の習慣とかは私より詳しいんですね、それで聞くんですけども。
- ・私は1つしかわからないですから、お父さんの方に聞くと、お父さんの方が考え方が広いみたいなんですよ。
- ・それでも厳しいのは、家に帰ったら絶対韓国語を使いなさいと言ってるんですよ、お父さんの方は。

日本社会と外国人

外国人として、韓国人が良くないこともしているとは思っているが、「韓国人」という先入観や偏見ではなく、良いところや役に立つところも見たいと思っている。日本で上手くやっていきたいと思っている。

- ・韓国人とか言わなきゃと思うんですね。日本人じゃないから日本の国で住むのがちょっと大変と言うか、生活は困らないんだけど、意識としてですね、まだ。
- ・「韓国人がなんとかなんとか」とおっしゃっているんですよ。その時には感じるんですね。それがなくなるのは難しいんじゃないかなと思うんですけど、一緒に住むなら意識が軽くなるといいと。
- ・（韓国は）良くないこともあると思うんですよ。民族性というか、見ないうちに悪いこととかやっちゃうとかあるんですよ。ゴミとかみんな見ないから捨てちゃうとか、日本人もあると思うんですけど。
- ・日本の習慣とかに従って住むようにするんですね。
- ・役に立つようにするんです。それをわかってくれるといいなと思います。みんな同じじゃなくて。
- ・つながりをもってできるように、あんまり細目（偏った目）で見ないで、やっていけるなど考えてもらいたいですね。
- ・韓国人とか日本人とか関係で見てもらったらちょっと困ると思うんで。「こんな良いこともある」って。それでやっていきたいと思うんです。

事例4の面接内容 日本人、子ども2人（第1子が4歳）

子育て不安

子どもに対してイライラすることがあり、母親として不適格感を感じている。

- ・たまに私だめかなって思うこともあって。そんなときに他のお母さんに聞くと女同士はそうよって言ってくれた。言ってくれたっていうか、そこもそうみたいで、そんなもんだよって言われて。頭では解っているんだけど、態度が違うくなっちゃう。
- ・しょうがないかなって思うんだけど。悩んで落ち込んだりね。言い過ぎたかなって思うことがある。
- ・自分に似ていると思うとね。同性だから余計そうになっちゃうのかな。

子育て観の違い

他国の母親と交流をもつことが少なく、子育て観の違いについては感じていない。「変わらないのではないか」と思っている。

- ・国的に違うことはあるんだろうね。こう韓国だったら韓国、日本だったら日本で。
- ・保育園で結構子どもとか他のお母さん達と話したりするけれど、子育てについてそんなに変わらないっていったら変だけど、（変わらない）じゃないかなあと思う。
- ・たまたま自分の子のクラスに韓国のお母さんが多いからかもしれないし、子どもが仲良い子のお母さんと子どもを通じて話すのかなっていうのがある。
- ・子育てについて違いがあるのかどうかは今一つわからないし、話す機会がない。

子育て方法の違い

子育て方法について、他国の母親と話すことがないので、違いはわからない。

- ・子育てについてはそんなに深く話したことはない。
- ・違うんだなって感じる感じないっていう以前に、話さないからなのかな、やっぱり。そういう話題にならないから。

子育ての経験

第1子がとても育てにくかった経験がある。母親として不適格感を感じたりするが、友人と同じ思いを共有できた経験ももっている。子どもがハングルを話してきたりすることを認めようと思っているが、余裕がないときは子どもにきつく当たってしまう。

- ・初めての子もだったし。本当にこの子は育て難かった。
- ・たまに私だめかなって思うこともあって。そんなときに他のお母さんに聞くと女同士はそうよって言ってくれた。言ってくれたっていうか、そこもそうみたいで、そんなもんだよって言われて。頭では解っているんだけど、態度が違うくなっちゃう。
- ・韓国語とかでしゃべってくると、私にはわからないから、余裕のある時は何なの？って言うようにはしているんだけど、余裕のない時とか急いでいる時とか焦っている時は・・・そういう時は後になってしまったと思う時がある。

ネットワーク

韓国人の母親とは、あまり交流がない。保育園の交流会でも自然にグループが別れてしまう。

日本人の母親との交流があり、特に保育園であった友人には、悩みを相談している。具体的に頼れる親などがいないので困る。

- ・日本のお母さんの方が、偏見とかじゃなくて話しやすい。
- ・会うとしたら子どもの送りとお迎えのときしかないし、行事の時とか、仲良いお母さんで固まっちゃうでしょ、そうしたら日本人は日本人同士じゃないけど、日本人の中でも仲良いお母さんで固まっちゃう。
- ・お母さん（日本人）と仲良くなれたことかな。それは大きい。この子のことで悩んでいた時だったから、親に向いていないんじゃないかって色々思っていた時だったから相談できるお母さんに保育園であったから良かった。
- ・すんなり仲良くなったお母さんがいて、その人のお母さんのお陰でだいぶ助かったり相談できることが多いから、気分的に楽になったことが大きいかな。
- ・韓国のおかあさんたちともっと仲良くなってもいいんだろうけど。
- ・保育園が交流会とかやってくれるんだけど、自然に別れちゃうんだね。なんか、やっぱり・・・
- ・親でも頼れればいいのって思う。行き詰まっちゃう。

文化や習慣

異文化とよく言われるが、それ以前に日本文化も変わってきたと感じている。他の国のことはあまりわからない。自分達は多文化社会での教育を受けてきていない、また他国の人々と接する機会がなかったので、大人になって急には多文化を受け入れられないと感じている。

- ・子ども達をまじえて飲み会をやったとき、韓国のおかあさんとか日本のおかあさん入り交じっていたけど、その時は話さ

なかったね。

- ・異文化以前に日本の文化も変わってきているのかなという気がするから、どこの国がどうか、あんまり（他の国のこと）わかんないしね、どこの国がっていうのが。
- ・自分たちがそう育ってきていないのもあると思う。こてこての日本人社会で育って来ちゃったし、今まで余所の国の人と接する機会がなくて、大人になってやってみるって言われてもできない。

子どものアイデンティティ

子どもが色々な文化を持った人と仲良く育つことは良いことだと思っている。

- ・子どもが色々な文化を持った人と育つのは、まあいいことではあるんじゃないかな。
- ・いろんな文化を持った人と出会うのはきにしないかな。自分が仲良い友だちを見つけてきて、仲良いんだったら良いと思う。どこの国の子どもだろうが、仲良くすることに越したことはないから。楽しくやっていってくればよいと思っている。

自分のアイデンティティ

日本人という意識はしない

- ・日本人って意識はあまりしない。

保育園の関わり

入園に際して、保育園の多文化保育のことを聞き悩んだが、夫と相談し、数年のことで良い経験だと考え入園させた。入園後、お祈りやハングルを覚えてきたり、運動会で韓国の民族的なことをするなど、他の保育園で行わないことを経験し、抵抗感があり戸惑ったり、逆に貴重な経験だ考えたりする。運動会については、民族の踊りを取り入れていたのでショックを受けた反面、写真を撮れてよかったと思ったり、複雑な思いがある。子ども競争をしない運動会については、自分たちのころと比較して保育方針の違いを感じ、日本の教育の変化も感じている。色々な文化を習ったり、友だちができることについては良いと思っている。また、保育園で自分も友人ができ救われた思いがある。自分が多文化教育を受けたわけでもなく、他国の人々と接した経験もないので、大人になって急には多文化を受け入れられないと感じている。挨拶などの多文化保育は良いと思うが、教育などに色濃く取り入れられるのは困る。実際保育園では、1つの国のことだけでなく、様々な国のことを公平に取り組んでいるので、受け入れられる。

- ・担任の先生から「うちは他の保育園と違って、いろんな国の子ども達がいるし」って言われた時に1日くらいだけ悩んだ。
- ・文化的にはわるいことではないと思う。いろんな国の文化を習うっていうことはね。
- ・最初は抵抗感はあった。
- ・主人と話していたんだけど、やっぱり他の保育園を見に行ったらわけじゃないけど、自分達が子どもの頃の運動会とかと比べてみて、違うと思う。
- ・この子の年代だからかもしれないし、この子の年代っていうのと多分、文化の保育方針の違いだと思う。
- ・今の保育園や小学校は争わないっていうんでしょ、順番もつけないとか...運動会って言うのはぶりもいれば一等もいるっていう中で親は育ってきたので、最近の保育園、次の小学校も変わってきたのかなと思う。
- ・衣装着て踊ったりするのは、それは可愛かった。
- ・お母さん（日本人）と仲良くなったことかな。それは大きい。
- ・その他にうれしかったことって、他の保育園より厳しくないところ。色々親身になってくれるから、家の事情とか。
- ・この保育園は他と違うことをやるから、えって戸惑うこと半分と、他ではやらなかったらうなってというのが半分と・・・結構複雑だね。
- ・自分たちがそう育ってきていないのもあると思う。こてこての日本人社会で育って来ちゃったし、今まで余所の国の人と接する機会がなくて、大人になってやってみるって言われてもできない。
- ・保育園に行っていて、どこの国の子どもだろうが、仲よくすることに越したことはないから、楽しくやっていってくれば良いと思っている。
- ・挨拶とかいろんな国の言葉をいっているからまあ良いかなあって。
- ・どっか1つの国の教育を徹底的にやっているわけじゃないから。それぞれ公平にやっているから、だったら良いかなって思う。

家族の支援

端々にお父さんと・・・という言葉がでてくる。子育てについて、夫によく相談している。夫が夜勤の仕事なので、気を遣っている。頼れる親が近くにいないので困っている。

- ・おとうさんもお父さんで大変だろうけど、たまにお父さんはいいなって思っちゃう時がある。自分と違うから。会社で厳

しい思いをしているんだろうけど、男だったらなってしまうときがある。

- ・主人と話していたんだけど、やっぱり他の保育園を見に行ったらわけじゃないけど、自分達が子どもの頃の運動会とかと比べてみて、違うよ、みたいなの。
- ・親でも頼れればいいのって思う。行き詰まっちゃう。

日本社会と行政

子どもを育てながら働くことの困難さから、生活や将来の行き詰まりや不安を抱えている。行政に対する不満はあるが、あきらめている。

- ・行政はひどすぎるよね。保育園の問題にしたって、ちょっと今の市長さんどうにかしてくれないと、働きにくい。
- ・おばあちゃんかおじいちゃんがみてる環境じゃないと無理だよって言われて。
- ・働き口を数打てばあたるのかもしれないけど、選ばなければあるのかもしれないけど、なかなか厳しいんだって、特に核家族っていうのは。そうすると誰か第三者の人を頼らなきゃいけなくなっちゃうし、そうなるとお金の問題がある。
- ・所得で保育料が決まるから、働けば働くほど保育料が高くなるんだよね。何のために働くのかっていうと家計が厳しいから働くんだけど、所得があがれば保育料っていうのも上がっていくし、何なんだろうって思う。預けにくい、働きにくい。
- ・社会や行政の望むことっていっぱいあるけど、改善しないよね。
- ・女の人が安心して子どもを育てながら働ける環境ではないよ、絶対。でも産むじゃない？みんなどうしているんだろう。働きたいけどね。
- ・親でも頼れればいいのって思う。行き詰まっちゃう。

保育士（A氏）の面接内容 日本人、S保育園での保育歴20年

S保育園の基本理念

もともとS保育園の発足が「2つの文化」だったとはいえ、保護者や子ども達の事情と向き合い1人1人に向かい合い共感して対応していくことが保育園の基本理念であり、どの保育園でも展開できることで、特別なことではないと考えている。特別な研修を受けているわけではなく、自分たちに無い文化や言語を保護者から教えてもらい、保育園の「宝物」にしている。保育士が何とかして保護者とコミュニケーションをとろうとしている努力を誇りに思っている。子ども達には、保育園での経験が将来の子ども達の経験や人格形成に繋がって欲しいと願っている。S保育園での保育活動を他の保育園や地域にも広げていく役割を担っていると考えている。

- ・ひとりひとりを見つめていって、ひとりひとりと相対していった中で、じゃあこんなことやってみよう、こんな歌を歌ってみようとかこんなゲームをしてみようやってみようと思ったら、どこにでも展開できることだし、どこにでも大事にされなければならない文化だと思うので、全然特別なことだと思わないし、とても簡単なことだし、保育の基本だと思う。
- ・保護者はたくさん困ったことがあるかもしれない。・・・いろんな考え方があって、いろんな生活があるなかで、親の生活を知った上で、何ができるかを考えてあげるのが、一緒に子どもを育てることだと思う。
- ・生活の方も多様化していて、本当に仕事を休めない・・・基本的に保護者とどう向き合っていくかが大事になってくると思う。
- ・私達が当たり前と思うことが当たり前じゃ無い。すごく特別視されるし、でも特別では無いと思う。
- ・たまたまその中に、日本と違う文化をもってる人たちがいるだけだと思う。もともとこの保育園の出発点が2つの文化だったので、もともとの土台はあったと思う。でも始めてみれば、そんなに特別なことではないと思う。
- ・私達が特別な研修を受けてエキスパートになってやっているわけではない。自分達に無いものは無いものなんです。文化はないから。自分達になかった文化、自分達になかった言葉の文化をどこから仕入れるかっていったら、保護者から教えてもらうことで、私達になかったものが、ひとつふたつ宝物になって繋がっていきただけの話なんですね。
- ・特別何かあるわけじゃない。自分達で本当に日常の中でできることしかやっていない。
- ・私達は、これからは発信していかなきゃいけないかなって。当たり前のことだったから、そんなに難しいことじゃないと思うんだけど、これだけ広がらないんだから、発信はしていかないといけないかなって思うんですね。
- ・今、友だちと過ごすことの楽しさと痛みをわかることをいっぱいいっぱい共感しておいて、だんだん大きくなっていく時に、ここでの思いとかがその子のなかに生きて「あのときこうだった」ってことが活かされていったらすごく良いと思う。そんなことを大事にしています。
- ・多文化共生保育の中で理想的に育っているわけではない。みんなどこでも同じ現場が展開されているだけ。桃源郷ではない。向かい合える気持ちと共感する気持ちがあれば、信頼が築いていける。

保育士として大事にしていること

「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」という言葉のように、ひとりひとりを大事に向かい合っていきたいと考えており、それが多文化の中で生きていく基本であり、保育の基本だと思っている。そのためには、自分のことを良く知り、自分にも誇りをもっていかなくてはならないと考えている。

- ・大事にしたいなと思っているのは、どの民族だから、例えば韓国人だからここを大事にしなきゃいけないとか、ペルー人

だからここを大事にしなきゃいけないとか、そういうことは細かいところでは色々あると思うんだけど、私はひとりひとりを大事に捉えていくことが一番の基本だと思う。

- ・長い間この保育園に勤務していて「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」という言葉が全ての基本なのかなって思う。
- ・自分をしっかりもって、自分のことを知って自分のことを誇りをもてなければ、相手の誇りなんて大事にできないし、相手をしっかり受け止めていくことなんてできないし、自分を受け止めることをできない者が、相手を受け止めることはできないって、主体が自分に変わって来て、自分をよく知って、自分が誇りをもつことが大切だと思って来た。
- ・自分に対してもそうだし、大事にしていることは、相手に対しても同じだと思う。
- ・ようするに、ひとりひとりを大事にしていくことだと思うし、ひとりひとりと向かい合っていくことだと思う。

子ども達の将来への願い

子ども達には、自分のことも友だちのことも大事に思える子どもに育ってほしい。共感するところがある子どもになってほしいと考えている。

将来思春期など反抗期を迎えたときに、親や文化を否定してしまうかもしれないが、その時に子ども達の力になれるよう、子ども達には大切にされた経験をしてもらいたいと願っており、保育士としての役割を感じている。

- ・自分を大事にしてほしいし、命も含めて心も含めて自分を大事にできる子どもになって、隣にいる友だちのことも解って、共感できる子どもになってほしい。国籍とかじゃなくて、全部含めて。ありのままを。その子がもし隠しているのであれば、隠しているのがありのままじゃなくて、隠さなくてはならない真実が痛かったってこと。痛いってことを感じる心をもって欲しい。
- ・子どもは1人1人自分で子どもと友だちと出会っていくと思うので、そういう場にあっても感じられる子ども、痛みを感じられる子どもになって欲しい。もしその子が知らん顔してたり、友だちが知らん顔して「自分はへっちゃらだよ、自分は強いよ」って言っている、気が付いてあげられる子どもになってほしい。
- ・園長なんかは、思春期とかすごく起こるって言っていました。親を疎ましく思う、そういう時が必ず来る。期間的にも反抗期は起こるけれども、下手にそういう親のことが強くあると、言葉を持たないにしても、親や文化を否定してしまったり断ってしまいたい。そういう時何が力になるかっていうと、どれだけよい思い出を持っているかだそうです。みんなの中で言葉が大事にされたり、文化を大事にされたりするとそのことが力になっていく。自分達のそういうことが繋がっていくんだなって思います。

多文化保育の実績

S保育園の多文化保育が周囲に広がった経験や自分も周囲に多文化保育を広げた経験があり、うれしく思っている。

保育園の中でも、保育士と子どもと一緒に母親の生徒になり歌や料理を教わって、子どもが母語を話すように変わったという経験がある。

- ・例えば、肉マンがSのバザーでたのは、ここにいた台湾のお母さんの手作りを売ってくれて、すごく好評だったのね。それを給食分科会があったときに、紹介したら、次の年から公立で肉マンがメニューに入ったの。それはSがやってきたことだし。もともとは保護者との1人1人のかかわりの中で生まれてきたことだし、特別なことではないし、すごくうれしいこと。
- ・自分はポルトガル語もしらないし、ブラジルのことも何も知らない。必死になって、ママに来てもらって、歌を歌ったりお料理と一緒に作ったりする時間を作った。週1回とか2週間に1回とか。ママに来てもらった時、その悩みを初めて聞いて、なすすべがなかった。でもそうやって自分がママから聞く、自分が生徒になる、子どもと一緒に生徒になる。子どももママから教わって、一緒になって生徒になっていく過程で、子どもが変わっていった。日本語しか話さなかった子が「私のママに教わった歌なんだよ」って・・・それが感激して、やっぱり子どもは感じ取る。

具体的支援

特に来日直後の保護者には、母語で挨拶することが望ましい。園からの連絡などは、すべて母語で作ることが望ましいが、困難なことも多い。信頼関係を築き、わからないことを当たり前に聞いてもらえる関係が必要である。

文化や習慣の違いがあり、運動会や保護者のサマーパーティなど行事などの主旨が伝わりにくいこともある。それには母語での説明が必要。挨拶ひとつでも大事にされれば、その言葉や文化をもっている親が子どもにとって誇りになる。保育園では日本語が多いので、自宅では母語で話すことを自信をもって勧めている。

日本人と外国人の保護者の交流は難しい。

生活が安定しないと、子育てのことを一緒に考える段階まで進めないのが、保育園としてもできる限りのことをしている。

子ども達が自分らしく生きていけるように、それぞれの文化や歌、絵本、料理などを保育士も生徒となって一緒にやっていた。

親にとっては、自分が伝えた歌や料理を子ども達が喜んでくれたらうれしい。そういう場を大切にしたいと考えている。

お帳面は、母語で項目が書いてあり保護者も母語で書ける。また、担任とのやりとりもできるので好評である。本名で名乗ったり、自分の名前が書いてあることについては、特別な意識がないので、親が喜んでくれているかはわからない。

- ・「このお母さんには、この言葉で言っておあげるとうれしいな」とか、まだ渡ってきたばかりの人には母語で挨拶してあげた方が絶対うれしいと思う。

- ・入園してすぐ書いてもらう両親の情報や保険証などのシートについては、説明し難い、でもすぐ欲しい情報なので、前はひらがなで書いて出していた。でもそれでもわからない。全部母語にしてしまわないと難しい。
- ・だからうちでは易しい言葉を使って、・・・母語で書いてあげないとわからない。保護者との信頼関係が築いていると「先生これ何て書いてあるの？」って聞いてやっていけるので、なるべく早くそういう関係になれるように、そういうことが当たり前になる関係をつくっていくことが第1段階。
- ・やっぱり一番良いのは全部母語で訳してあげることだと思う。例えば、なんで一緒にやるのかっていう精神論は難しいから、身ぶり手ぶりでは通じないので、私達が何を大事にしたいのか、最低限のことを訳してもらった。
- ・保護者の会の活動の中でかなり密ですね。外国人のお母さんと日本人のお母さんの交流は、かなり難しい。
- ・子育て不安以前の問題、生きるってということに関して整備されないと、子育てのことを一緒に考えましょうっていうところでは難しい面がある。
- ・挨拶一個だけでも全然違うと思う。それが大事にされる場所か大事にされないところかかっていうのが子どもにとって大きい。大事にされるのであれば、その言葉や文化をもっているお父さんお母さんが誇りになるんだけど、大事にされないって感じてしまうと、反発すると思うんですね。
- ・今は自信をもって「絶対母語大事にして」言えます。絶対諦めて日本語で話すんじゃなくて、せめてお家では母語を大事にする環境をつくっていったらいいって言える。
- ・私達保育士が子どもの母語で話そうと思ったら、本当に下手くそで聞いちゃいけない母語になっちゃうから、それよりは本当にきれいな正しい母語で話してほしい。そのかわり私達は圧倒的多数で日本語でしか話し掛けられないから、いやでも日本語は耳に入ってくるから、そんなことしないでいいって言ってるの。もう自信もてる。だって、ここでどんなにしたらって、小学校に行ったら、母語に触れ合えるなんて無い。小さいうちに、親が大事にしているものを、わかってもらわなくても、諦めないで語ってあげることが大事。
- ・日本に慣れるしかないって思っちゃうみたい。慣れるのも必要なかもしれないけど、自分のものを押し込めちゃう必要はないし、自分のものを広げながら、私達が慣れる助けをしたらいいと思うし。
- ・お帳面かな。ひとりひとりを観ていくって、ずっとそのことを大事にしているの。自分の母語で書ければ一番良いんだけど、母語で書けないけれども、なんとかハングルだったら書いて来て良いよ。ポルトガル語も大丈夫、スペイン語も大丈夫。誰かが読める。お母さんが自分の母語で書けるっていうのも良いと思う。
- ・お帳面見たら担任の先生が書いてきてくれて、自分の悩みにも答えてくれてっていう感じにできるので、お帳面はこれから大事にしていきたい。
- ・本名で名乗ったり、自分の名前が書いてあるっていうのは、わからないなあ。喜んでくれているのかもしれないけど、他と比べたことがないし、そんなに特別なことをしている意識がないからわからない。
- ・自分の知っている曲、自分が伝えた曲を子どもが歌ってくれていたら嬉しいと思う。自分が教えた料理、自分が一緒に作った料理を子どもが味わってくれていたらうれしいよね、そう言う場合は大事にしたいと思っている。教えてもらった物を分かち合う場を大事にしたいと思っている。そのことは喜びになっているかな。

外国人と日本人の育児不安の違い

育児不安については、一人一人に対応しているので、国籍などグループ化して考えていない。
 外国人は、日本人が思わないような不安がある。本名を名乗らず日本風の名前を名乗らなくてはいけなくて、日本語で話さなくてはならない、日本に慣れなくてはいけないという意識など。子育て以前に生活不安も大きい。
 子どもが日本に慣れてしまうと日本語しか話さなくなるという言葉の問題もある。子どもは、母語が大事にされていないと、その言葉や文化をもっている親を誇りに思えず反発してしまう。
 子どもが小さければ、日本人も外国人も「食べない」など悩みは似ており、反抗期も同じ時期にやってくる。外国人の場合は、言葉がでてくるのが「遅い」という心配がある。

- ・あんまり、グループ化して考えなかった。対一人一人で行っていく、話をしたりとかするじゃない？じゃあ韓国人は？ペルー人は？っていうことがわかりづらい。もしかしたら大きく違うかもしれないけど、あまりにも個別でいっぱい話しているので。
- ・来日当初とか、日本人が思わないような不安があるとは思います。
- ・一番最初に来た時に、園長、副園長と会う時に、一番最初書いてくる書類には日本名が書いてあったりとか、本当に日本風の名前しか書いてない。日本の名前であるはずがないじゃない？という子どもまで日本風の名前で書いてくる。「どうして？」って聞くと、日本風の名前でないといけないって浸透している。
- ・保育園に入るって、一番最初の社会の入り口だと思う。保育園に入る情報を持っている人って、まだ「情報を持っている方」だと思う。保育園に入ることすら知らない人も沢山いるので、保育園に入るって情報を持っている人って、かなり日本でもまだ情報を持っている方だといえる。だから助け合えたか相談に行ったかで。そういう人でさえ、いいですよって名前の話からして「できれば御自分の母国語の表記で、ローマ字表記しましょうか？」っていうと、驚かれて。そこからスタートですね。
- ・日本風の名前でないといけないとか、どうしてそんな風になってしまうのかな？一歩外にでて学校に行くときは、日本風の名前とか。長く居ても、いざ学校に行こうとした時にも悩んだり困ったり迷ったり・・・あるんですね。

- ・外国人と日本人の不安は違うと思う。元々心配するものが違う。日本人が不安に思わないことを不安に思いますよね。
- ・子育て不安以前の問題、生きるっていうことに関して整備されないと、子育てのことを一緒に考えましょうっていうところでは難しい面がある。
- ・親と子の言葉の違いあるっていう声は聞きます。日本語しか答えてくれないとか。
- ・一刻も早く日本語に慣らさなきゃって、日本語で話すおかあさんもいる。なるべく日本語で話すようにします。でも自分の日本語が下手だからって。日本に慣れるしかないって思っちゃうみたい。
- ・子どもが小さければ小さい程、(日本人でも外国人でも) 悩みは一緒なのかもしれないね。「食べない」とか「飲まない」とか「いうこときかない」とか。反抗期とかもだいたい同じ時期だし「いやいやって困っちゃう」って共通している。言葉がでてくる時期に、遅いとか心配がある。
- ・挨拶一個だけでも全然違うと思う。それが大事にされるところか大事にされないところかっていうのが子どもにとって大きい。大事にされるのであれば、その言葉や文化をもっているお父さんお母さんが誇りになるんだけど、大事にされないって感じてしまうと、反発すると思うんですよね。

多文化共生社会と保育

S 保育園が、民族のことを取りあげて特別なことをやっていると思われていることや、他の保育園や社会が外国人に対して「慣れて下さい」という考え方をもっていることに対して、改善すべきだと考えている。

- ・他の保育園から見たら、すごく特別なこと「民族文化のことを取り上げて、すごく特別なことをやっている」様に見えるんだけど。
- ・他の保育園は全然違うみたい。どうしてそんなに違うのかなって思うくらい凄く違う。元々保護者と相対する向き合い方が違うかもしれない。
- ・ちょっとづつ、20 年前に比べて十年前、十年前に比べて今っていう感じで、やろうとしている保育園は出てきましたね。

行政や社会への要望

外国人の立場にもたって、どういう助けが必要か、どのような団体が活動しているかなど、地域の情報収集をし、困ったときに助けになる行政であってほしいと思っている。

公的な機関は外国人にとって抵抗感が強く、保育園が助けになっている場合もある。

- ・もっと情報収集すべきだし、もっともっと利用する側にたって、やさしくなってほしい。おかあさんたちがつらい思いをしている。
- ・行政には、ちゃんと助けるネットワークに入ってほしい。地域の情報収集して、間口を広げられるように、困った時に本当にかけ込めるようなところになって欲しい。知られたらまずい情報もあるとは思うけど、でももう少し知っておいて欲しい。
- ・それをどういう団体がやっているのか、こういう助けが必要で、それを今支援しているのはこういう団体で、自分達は何ができるのだろうって考えてほしい。

保育士 (B 氏) の面接内容 日本人、S 保育園での保育歴 3 年

保育士として大事にしていること

子どもの国籍や背景を大事にしたいと考えている。

日本になじもうとしている外国人が母国のことを思い出せなかったり、日本人が肩身の狭い思いをしないように等、日本人外国人両方の保護者への対応の困難さを実感している。

自分自身も多様な人たちと一緒に生きていくことの大切さを学んでいる。

- ・いろんな国とか、その子の家庭環境があって、それをすごく大事にしたい。
- ・やっぱり保護者の人への対応が難しい。無理に引きだそうすると、日本になじもうなじもうとしている人に、フィリピンのことを教えて下さいって言っても、思い出せないとか、思い出すのに時間がかかる。
- ・日本の保護者は、多分何もしなくて保育園に来た人は、なんだここはってびっくりする人がいると思う。外国人のママに、自分の文化を大切にしてもらいたいと思うあまり、日本のことがあまり紹介されなかったりとか、逆に日本人が肩身の狭い思いをしないようにしなければいけないと思っている。

子ども達の将来への願い

S 保育園での多文化保育が、子ども達の中に浸透していることがわかった経験がある。

子ども達には、色々な友だちと出会うって欲しい、保育園を出ても、自分と異なる人に会ったとき、友だちになりたいと思うような子どもになってもらいたいと思っている。そのときに橋渡しになれるような保育をしたいと考えている。

- ・おにいちゃんが卒園児の子がいて、その子が学校で「もしどらえもんがいて、ひとつだけ道具をだせるとしたら」っていうところで、「それを飲めば、どんな人でも仲良く暮らせる何か欲しい」って答えたらいいです。おかあさんが感激して、S 保育園に入って育って、心の中に植えられた種が咲いたんだなって思ったって。

- ・自分にできることは限られている。保育園から出てしまえば、手が離れてしまえば、何も関わることもできなくなってしまう。保育園にいる間にいろんな友だちと友だちになってもらいたい。
- ・種まきをしたいなと思っている。保育園をでたら忘れちゃうかもしれないけど、いつか自分とちょっと違うなって思う友だちにであったときに、ええって思うんじゃないかと、なんか懐かしいとか、友だちになりたいとか、居て当然だと思ってもらいたい。

多文化保育の実績

子ども達も、自分と違う文化や言葉の歌に疑問をもつが、納得できる。S保育園での多文化保育が、子ども達の中に浸透していることがわかった経験がある。お弁当など、習慣のないことはS保育園でも最初は上手く行かなかった。

- ・おにいちゃんが卒園児の子がいて、その子が学校で「もしどらえもんがいて、ひとつだけ道具をだせるとしたら」ってところで、「それを飲めば、どんな人でも仲良く暮らせる何か欲しい」って答えたらいいです。おかあさんが感激して、Sに入って育て、心の中に植えられた種が咲いたんだなって思ったって。
- ・年長になると「どうして韓国の歌ばかり歌うの」って言われたことがあります。そのときには「○○くんは、韓国から来ていて、韓国の歌を教えてもらったからみんなで一緒に歌おう」っていったり「○○くんはフィリピン人だからフィリピンの歌と一緒に歌う」
- ・一番すぐすぐ文化のことがわかるのは、食事。お母さんの食事に慣れてきている子が、いきなり保育園の食事はなかなか食べれないんですよ。
- ・まずお弁当が何かわかってもらえない。お弁当の習慣がない国もあるので、前はお弁当箱だけでもって来たりしたこともある。特にお弁当については、「おかずの入ったお弁当」っていわないとわからない。

具体的支援

自分の国の文化や食事などをアピールできる場を作ること、保護者が元気になる。保護者同士の交流を大切にしており、特に食事などを通じて仲良くなり理解しあえるようにしている。しかし、タイミングを計らないと、保護者が思い出せなかったり負担になったりする。

保育士になって以来、S保育園で働いているので、多言語の園便りも違和感がない。

なんとか保護者に伝えようと、色々な手段を使っている。外部の書類でも読んであげている。外部の施設と一緒にいったりもしている。お帳面が多言語で作ってあるのが、S保育園の特徴であり、保護者とのコミュニケーション手段でもある。

- ・特別誕生会の時には、その子の好きな食べ物を出しているんですけど。例えばある国の食べ物とか、おかあさんに教えてもらって出したりとか、バザーの時に○○君のママの何々っていうのを出したり、売ったり。それでママがすごく元気になる。その国のものを紹介してもらったりします。
- ・保護者は送り迎えの時間帯が違うから、最初は交流がないんですよ。サマーパーティとかで初めて知り合って、一緒にご飯を食べて交流を図って、やっと話すきっかけができて。話すきっかけさえあれば良いと思う。
- ・保護者の集まりは大事にしている。クリスマスとか運動会とか。うちの保育園の運動会ってお弁当を分け合うんですよ。自分の家のお弁当をいっぱい作って来て分け合って食べるんです。それで一気に仲良くなれるんですよ。そこから、なんで違うんだろうって考えたり理解したりできる。
- ・自分はこの保育園に来て初めて見た園便りがあれだったから、違和感がないんですよ。
- ・この保育園だと、いろんな手段を使ってママに伝えようとするじゃないですか。でも小学校とかは、漢字ばかりの書類とか。わからないから、この保育園で読んで・・・みたいな対応をしています。
- ・お手紙だけだとわからないので、特に大きなお泊まり会とか。持ち物は、必ずそのママの言葉でわかるように辞書を引き引き、単語だけでもいいから、持ち物だけでもその国の言葉でポスターを書いて、なおかつ説明するとよくわかってくれる。
- ・ここの保育園の特徴っていったら、お帳面ですね。その国の言葉で書いてあるやつを配っています。それが一番コミュニケーションが取り易い。

外国人と日本人の育児不安の違い

来日当初は気候に戸惑う。育児不安の違いは個別に対応しているので、一概に言えない。育児方針の違いは感じている。言葉の問題や就学手続きなど、S保育園以外のことで相談を受けている。

- ・来日してとまどうのは、気候が一番多分あると思う。
- ・もっとあると思うんだけど、なんだろう。国とかっていうより、その子の育って来た背景もあると思うので、（一概に言えない）
- ・育児不安というより、育児方針の違いはあると思います。
- ・1つは育児不安と言うより就学の手続きがわからないとかはありますね。韓国籍の人は、まず何をしたらよいかわからないとか。
- ・この保育園だと、いろんな手段を使ってママに伝えようとするじゃないですか。でも小学校とかは、漢字ばかりの書類とか。

多文化共生社会と保育

外国人、多文化保育などについては、自治体によって取り組みがまったく異なっている。保育園は園長の方針が影響しやすく、また「日本になじんで」という姿勢の保育園が多く、S保育園が特別視されていることを問題だと思っている。自分の名前について、堂々と名乗れる社会になるべきであり、当たり前に関わり合える場が必要だと思っている。

- ・自治体が、外国籍の子が増えているってということで、よく使う言葉のパンフレットとか、取り組んでいるところはありません。自治体によって違いますね。
- ・日本にいたから、日本の文化になじんでっていう保育園が多い。
- ・保育士会で保育園同士の交流があるんです。年長児とか交流するんですけど、S保育園ってということで、歌を歌ったり、ゲームとかするんですけど、それをみて「やりたいな」って思ってくれる先生とか「教えて欲しい」っていう先生はいるけど、それを普通の保育に取り入れようという園は少ない。「Sだからできるのよね」っていうことが多い。
- ・他の保育園からしたら、多言語で書いてあってすごいなって思うみたいです。
- ・それなりに対応しようとしている保育園も増えてきている。いろんな言葉で言ってみたり、お手紙をお母さんにわかるように書いてみたりとか。
- ・他の保育園に対して。特別なことをする意識をもたないで。日本人ばかりなのか不思議なくらいだと思ったほうが
- ・特に在日の子は日本社会の目があつたり、本名隠している子どももいる。いろいろなんだと思うけど、自分には2つ名前があるんだって、堂々と「本当は日本の名前じゃなくて、韓国人の名前もあるんだよ」って言って当たり前の場があると良いと思う。
- ・ちょっとかわった名前だっていう友だちがいても、それがその子の名前なんだって当たり前に関わり合える場があると良いと思う。

行政や社会への要望

行政や地域についても、言葉の問題を感じており、また「子どもの権利条例」があるにしても、浸透していないと感じている。外国人にとって、地域のコミュニティがあるのは良いことだと感じている。本名を当たり前に関わり合える場が必要だと感じている。

- ・行政はちょっとわかりませんが。ママ達にもうちょっとわかりやすく、簡単な日本語で書いてあるといいと思います。
- ・コミュニティがあって、そこでグループがあって楽しい活動をしている。そういう自分の居場所があるといいと思う。
- ・ちょっとかわった名前だっていう友だちがいても、それがその子の名前なんだって当たり前に関わり合える場があると良いと思う。